

令和4年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立上谷小学校
実施日	令和5年1月25日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価」についての評価の説明及び学校の考えの欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	○それぞれの役割分担が明確に、組織的・計画的に指導を行うことができている。授業改善を図り、教育内容の重点化に全教職員が取り組んでいる。 ○上谷小の教育目標等について、年度当初の職員会議で校長先生からお話がありましたが、共通理解の場があまりないような気がする。 ○役割分担など特定の人の仕事に偏りがある気がする。	B	○学校ホームページ・上谷の丘などで情報発信している。学校内でも掲示を増やし継続的に教育向上の意欲が見られる。 ○教育目標等は学校運営には大事な事であり、できていると思うが、時間とともに「形骸化」をすることもあって「振り返し」を実施してほしいと思う。 ○以前から上谷小の教育目標をやり直していただいているが組織的にどのように相対されているかは保護者側からは見えづらい。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	○避難訓練は定期的に行なっている。教員・児童ともに自然災害や不審者対応の訓練は出来ていると思う。 ○職員室の雰囲気がよく、トラブル等も共有し、管理職のリーダーシップのもと、組織的に対応できている。生徒指導会議などで情報を共有し、トラブルを未然に防ぐこともできている。 ○職員が協力して、対応していることが多い。 ○緊急連絡体制はあるが、事務局を通らずに校内へ入る保護者が時々いるので安全管理面で心配。 ○トラブル対応について、保護者との接点の事案に管理職と担任との連携がうまく取れていなかったことがあった。	A	○職員室の風通しは良さそうに見受けられます。組織的に動いていて報連相も問題ないように見える。 ○校長先生のリーダーシップのもと、教職員がお互いに協働・協力し、組織的な対応ができている。 ○職員間共通理解や信頼関係がトラブル等の迅速な解決策や児童の安全、安心の確保につながるの組織的に対応できていることは良い。 ○事務室が2階にあるため表示はあるが、慣れない方ばかりで、管理面において必ず通達する必要がある。 ○メールを活用して適時情報をいただけるのは助かる。
	3	学校は、働き方改革を意図して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	B	○適宜、管理職より勤務時間についての声をかけていただいている。「意識づけ」が大変だと思うので、とてもありがたい。 ○職力が減ったのは放課後が確保できてよかった。 ○会議や行事の見直しを図り、業務内容の精選に取り組んでいる。会議の時間も短く、超過するとはならない。残業も減らして、できるだけ減らしようという意欲がある。 ○学校は、より、社会全体で、就業時間を減らすという取り組みがなされているが、実際、帰宅してからの仕事時間が減っている。仕事内容をもっと整理していただくか、評価できたり改善案を思いついたら、うまくタブレットなどをもっと活用できればいいとおもいますが、.. ○難しいと思うが、児童の登校時間より遅い時間が、勤務開始になっている。 ○ノー残業デーはほとんど確認しておらず、結局職員本人の意識改革をしなければ意味が無い。 ○休暇があっても仕事量が減らないとなかなか休めませんし、家に持ち帰るのでは意味がありません必要ない業務は個人や各学校で削減してどんどん削減していききたい。 ○ノー残業デーがあったとしても、やることも多くて家でやるしかない。もっと人を増やしてほしい。これは、市に訴えることで学校には関係ないかもしれないが.. ○計画的に休みたいのが多いが、人が少なく取れない。	B	○校長、教頭、教務主任等、率先して残業を減らすように対応している。 ○学校全体で課題について自己分析がされ、改善方向に進んでいる。 ○ノー残業デーが形骸化方向に進むことに危険性。人員不足が影響していることは否めない。 ○少人数の学校という点もあり、一定の職員に係る負担が大きくなっていることと思う。市として少人数の学校に対して職員の定数の見直しを行うべきである。 ○先生方の仕事量の多さには頷かざるが、勤務時間については個々の力量にもあると思うことができることから徐々に取り組んでいくしかない。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	B	○特にPJ(加配)による指導がとて学びになる。児童が主体的に学ぶために、教師の視点や声掛け等をはじめとする指導が授業改善に繋がっている。 ○教員の少人数体質に思っている。 ○先生方は教材研究等に意欲的に取り組んでいるように感じる。 ○全教職員が授業改善を公認することで、授業改善を促している。ICTを活用し、アウトプットに生かす授業を推進している。学力調査の結果を共有し、児童の実態を把握して授業を構築することができている。 ○授業の実態をよく見て、それぞれの先生が、工夫して指導している。 ○やりがちなことと課題を共有する必要がある。	B	○パソコンを活用しうまく授業に取り組んでいる。 ○全教員が様々な工夫した授業を展開し、子供達が意欲的かつ楽しそうに学んでいる様子が素晴らしい。 ○先生方の授業の質、改善の向上への意欲を感じる。 ○分からないことを聞くとためらう児童も少なからずいる。(恥ずかしい・怖い・ダメだと思われる等)様々な感情があるのも理解し、聞き上手な先生になって欲しい。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	○いじめ防止では、全職員で取り組み担任だけでなく、色々な職員が関わって、みんなで取り組んでいることを児童にも認識させた。 ○年間指導計画に基づいて、35(1年生は34)時間の道徳科の授業を展開している。年間重点目標を定め、全教職員で取り組んでいる。自校やいじめの防止を未然に防ぐために、適切な指導を実施している。 ○道徳・生徒指導など子ども達の身に合った指導がなされていると思う。	B	○個別指導、補習など工夫して行っている。 ○結果的に少子化による少人数のクラスがよい方向になっている。 ○個に応じた授業の充実を図る以前に先生方の負担が増えたら困るのである。 ○多いようなので教える側が見直すべきである。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	○学習指導を重んじ、けじめのある態度で授業に臨む指導がされている。丁寧な言葉遣いを年毎目標とし、時間外に行方不明で、定時を過ぎる。また、給食と交流することで、自分の意見をもち、発表できるように促している。 ○登校時、進んて挨拶できる児童は少なく、挨拶をしても返さない児童が多いように感じる。 ○下校指導していること、児童は進んで挨拶の仕方を指導しているものが少ない。委員会活動などで、あいさつ運動をしてもいいのかもしれないが、効果があるか分からない。 ○忘れ物は軽微している印象である。落ち着いた態度で生活・授業態度は、学年によって差がある。 ○宿題や忘れ物は保護者の関わりが重要であることから、子供だけの責任ではない。 ○放課後取りにくる子が多いことから、もう一歩家に帰ったあつぽのことがない限り学校に帰らないと周知するべきである。 ○生活習慣から児童を育てなければならぬが、それは学校がやることで家庭環境があるので難しいところがある。	B	○個別指導、補習など工夫して行っている。 ○結果的に少子化による少人数のクラスがよい方向になっている。 ○個に応じた授業の充実を図る以前に先生方の負担が増えたら困るのである。 ○多いようなので教える側が見直すべきである。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事防止のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	B	○倫理確立委員会や研修を行い、不祥事を未然に防ぐ心構えが全教職員にある。風通しよく、悩みや不安を相談できる職場の雰囲気がある。 ○倫理確立委員会、定期的に不祥事防止について話し合っている。職員室では、職員同士で話し合う雰囲気がある。 ○教員同士がとて話しやすい雰囲気である。 ○倫理確立委員会は定期的に行なっているが、1月1日の倫理確立委員会だけで共通理解するのは難しい。他からの不祥事に対する目は厳しくなり変化するものなので分かりやすいガイドラインのようなものが欲しい。 ○今年度に入ってから放課後職員室の雰囲気がよくなったことがあった。	B	○職員室の雰囲気は落ち着いた。 ○倫理確立委員会が機能し、研修も行われている。 ○職員の方の倫理観は良いと思う。 ○先生方の心のゆとりが欲しいと、見えるものも見えないので教職員の環境改善も同時に進めていただきたい。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に育てる態度で接している。	B	○児童や保護者に対して、根拠よく説明を行い、理解を得ることができている。また、一人一人の意見を認めながら、協力しながら進めるようにしている。年2回の個人面談や教育相談を通して保護者と協力して教育活動を行っている。 ○個に応じた対応ができていない。 ○すぐ適切なような威圧的な教員はいないと思う。 ○威圧的な態度の時もあるが職員全員でなくして方向になっていくといふ。自分自身も気を付けていきたい。	B	○教職員は全児童を把握している。 ○1人1人の児童への目配りや心配りが行き届いているせいか、子供達もいつも生き生きしている。 ○授業の準備を週に、先生と児童の関係は良好に感じていると感じる。 ○小規模校の良さを感じ、ひとり一人を大切に、個に応じた対応がなされているように感じる。 ○威圧的な態度は見受けられないが、忙しい子どもたちは怖く見えてしまうかもしれないので注意した行動を心がけてほしい。
	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	○就学支援を積極的に行い、保護者と連携しながら積極的な支援をすることができている。特別支援学級との交流の仕方や、日々の学習に対して、より指導を要する必要がある。 ○支援の必要なくともして適切な支援ができていないように感じる。(難しいかもしれないが教員間の連携や就学支援委員会の計画的な実施が必要) ○支援員が配置されていないのは大変そうに見える。特別支援学級間同士が関係の教員配置ではないので連携がとりにくかったり、少人数で教員がいない時も声をかけられなかったりすることもあったと思う。 ○在籍の児童など、保護者・担任・特別支援コーディネーター・管理職・相談士との間で連携や意思疎通が円滑に進んでいない時があるように見えることもあった。関わる人数が多いほど、もっとお互いにコミュニケーションをとったほうがいいのではないか、と思う場面があった。 ○特別支援の在り方を全員で共有する必要があると思う。来年度の就学支援委員会の予定がすでに決まっていたらいいと思う。	B	○特別支援学級の児童は伸び伸びと楽しそうに授業を受けているが、現場の努力によるところが大きい。支援員さんの加配がされることにより、 ○特別支援教育体制の充実にはまだ課題があると思う。 ○特別支援教育はうまくできていると感じる。今後も学校・保護者間で相互理解を深めていければよい。 ○すでに決まれていると思うが特別支援学級の先生が孤立しないように全職員の情報の共有、共通理解が重要であると思う。
学習環境	10	学校は、安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	○安全点検や避難訓練時に安心・安全な環境を整えるようにしている。薄板の購入や遊具を計画的に行うことができている。運動場や各学年の給食が分ける掲示の進捗もできている。 ○定期的に学年で展示物をかえていく意欲がある。 ○運動場の分組等はしっかりしていると思う。児童が運動用具だけでなく、校務員さんが使った用具も児童の環境整備のために使うものなので、古いものは予算を考慮しつつ新しくしていいのではと思う。	A	○掲示や展示物を通して児童の様子を知ることができ、大変良い。 ○日頃から環境整備ができている。 ○いつも整理整頓、清掃も行き届いている。 ○学校生活をより安全にするには整っているが普段見えない場所までは手が回っていない様子である。
	11	学校は、開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	B	○就学支援委員会など学校説明ができたのがよかったと思う。 ○ホームページによる情報提供や、保護者アンケートの回答の公開はしっかり行っている。防犯に関する情報もメールで送っているのよ。 ○学校・学年だよりやメールを積極的に活用して、開かれた学校づくりを推進している。学校評価を受け、日々の指導に生かすことができている。	B	○地域へ回覧板などで情報公開している。 ○管理職のリーダーシップのもと、積極的に開かれた学校づくりがされている。 ○開かれた学校に努力している。 ○HPを活用して分かりやすく伝えている。もう少し保護者に周知してもよいと思う。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	○OPTAとの連携も様々ありますが、どうしても学校に押込められている部分が多くて感じる。 ○児童の登下校を見守ってもらうなど地域の方との連携はそこそこ取れているように感じる。SSWなどは、学校の業務をもっと市教委や関係機関と共有したい方が多いと思う。 ○総合的な学習の時間でもっと外部指導をお願いしたいのだが、どういった人材があるか分からないし、限られている。 ○地域の人材発掘には課題がある一方、消防署や警察署、スーパーマーケットと連携して授業に活用することができている。不登校児童は昨年度より減少しており、相談員と連携を図ることができている。よりSSC・SSWとの連携を密にする必要がある。 ○コロナ禍で、外部や地域の活用は難しいのが現状。 ○小中連携の一環として、中学校の教員に授業を通してもらうなどの工夫に取り組んでいる。一方、小中が共通した取組には課題がある。コロナ禍であることも、交流ができていない要因となっている。 ○小中のつながりがあり見えてこない。スタディウィークやノーゲームデーなど設定はされていますが、もう少し児童や保護者に周知するなど活用できるとよい。 ○スタディウィークの目的等をはっきりさせ学校全体で行うほうがよい。	B	○地域の大学と連携し、ステューデントインターンシップや、ボランティア学生の受け入れなど積極的に地域連携を図っている。 ○地域の人材を発掘するには時間ときっかけが必要。余裕がない中、現状で進めることにより。 ○自治体に協力してもらうだけでなく、自治体に協力するような行事を設けるとより風通しが良くなる。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	○小中連携の一環として、中学校の教員に授業を通してもらうなどの工夫に取り組んでいる。一方、小中が共通した取組には課題がある。コロナ禍であることも、交流ができていない要因となっている。 ○小中のつながりがあり見えてこない。スタディウィークやノーゲームデーなど設定はされていますが、もう少し児童や保護者に周知するなど活用できるとよい。 ○スタディウィークの目的等をはっきりさせ学校全体で行うほうがよい。	B	○コロナ禍で難しくなったと思うが、あまりつながりを感じない。